

調査研究結果

	種目	発行者	教科書名
観 点	地図	東京書籍	新編 新しい地図帳
取 扱 内 容	<p>○「地図帳の使い方」においては、方位磁針を用いて身近な方位を調べたり、地図のきまりを使った地図づくりに取り組んだりする活動ができるようになっている。</p> <p>○「日本の全図」においては、日本の東西南北端を調べたり、都市と都市との間の距離を調べたりする活動ができるようになっている。</p> <p>○「日本の地方図」においては、本州から九州へ渡る交通路を調べたり、北陸地方の伝統工芸を読み取ったりする活動ができるようになっている。</p> <p>○「世界の地図」においては、世界で一番高い所と深い所を調べたり、北極海を囲んでいる全ての国を調べたりする活動ができるようになっている。</p> <p>○「資料・統計」においては、日本の最大の貿易相手国を読み取ったり、太平洋ベルトにみられる工業地帯や工業地域が海に面している理由を考えたりする活動ができるようになっている。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、日本列島全体の災害地図を掲載し、災害の起きる要因や防災対策について考察したり、日本と世界の歴史地図を掲載し、同時代の世界の様子を参照しながら学びを深めたりする活動が取り上げられている。</p>		
内 容 の 構 成 ・ 排 列	<p>○内容の構成・排列については、「日本の各地の気温と降水量」や「地域による農業生産のちがい」など、各種の基礎的な資料を掲載し、基礎的かつ基本的な知識・技能を活用して課題を追究できるような工夫が取り上げられている。</p>		
使 用 上 の 配 慮 等	<p>○冒頭の世界地図に、世界の国の「ありがとう」の言葉などを掲載したり、日本地図に、各都道府県からイメージされる特産品などのイラストを掲載したりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○キャラクターが地図の基本を解説したり、「ホップ↑ステップ↑マップでジャンプ↑」を設けたりするなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がされている。</p> <p>○全ての児童にとって、読みやすいフォントとなるよう配慮したり、識別しやすい配色を用いたりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、地形がわかるドローン動画を活用できるようにするなど、使用上の便宜が図られている。</p>		
そ の 他			

調 査 研 究 結 果

	種目	発行者	教科書名
観 点	地図	帝国書院	楽しく学ぶ 小学生の地図帳 3・4・5・6年
取 扱 内 容	<p>○「地図帳の使い方」において、縮尺を用いて実際の距離を調べたり、方位や地図記号などを用いた宝探しに取り組んだりする活動ができるようになっている。</p> <p>○「日本の全図」において、富士山がある県を調べたり、東北地方の大きな祭りや伝統行事を調べたりする活動できるようになっている。</p> <p>○「日本の地方図」において、中国地方で一番高い山の高さを調べたり、沖縄島で栽培されている果物を読み取ったりする活動できるようになっている。</p> <p>○「世界の地図」において、本初子午線上に都市記号がある国を調べたり、オーストラリアでたくさん採れる原料品を調べたりする活動できるようになっている。</p> <p>○「資料・統計」において、日本が世界各地に輸出しているものを読み取ったり、田が広がっているところの地形の特徴を考えたりする活動できるようになっている。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、「防災マップ」の具体的な作り方を掲載し、自らの身を守るために何ができるかを考えたり、比較・関連させて考察できる資料を掲載し、社会的な見方・考え方を働かせたりする活動が取り上げられている。</p>		
内 容 の 構 成 ・ 排 列	<p>○内容の構成・排列については、「江戸時代の結びつき」や「日本の世界遺産」など、歴史の学習で活用できるテーマ地図や資料図を掲載し、歴史事象を地理的な空間の広がり結び付けることで深い学びを実現できるような工夫が取り上げられている。</p>		
使 用 上 の 配 慮 等	<p>○地図の見方を示唆したり、活用を促したりするキャラクターを掲載したり、世界全図では、世界のあいさつを二次元コードの音声コンテンツと併せて掲載したりするなど、児童の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○「トライ!」「地図マスターへの道」を設けたり、巻末に「地図マスターへの道」のまとめを掲載したりするなど、児童が主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○全ての児童にとって、読みやすいフォントとなるよう配慮したり、識別しやすい配色を用いたりするとともに、1人1台端末を活用した学習活動として、二次元コードを掲載し、47都道府県のクイズを活用できるようにするなど、使用上の便宜が図られている。</p>		
そ の 他			